



# あなたにも、わたしにも みんなに届く大切な情報

どのように「伝える」のか、  
どうすれば「伝わる」のか、  
市内で「伝わる」活動をされている  
方々にお話を伺いました。

## 「声の広報」を ご自宅にお届け

毎月発行している「広報こうか」、年4回発行される「甲賀市議会だより」、社会福祉協議会が発行される「社協こうか」は、市内で活動する音訳グループの皆さんのご協力により、『声の広報』として目の不自由な方の自宅に直接お届けしています。

活動されるメンバーの皆さんにお話を伺いました。

### 音訳グループ「ひだまり」

「待っていたよ、声のために」現在のメンバーは7人で、本が好き、朗読に興味がある、仲間を作りたい、社会とのつながりなど、メンバーごとに参加のきっかけはさまざまです。



「毎月届くのを待っていたいる方のためにこれからも頑張ります」と話すメンバーの皆さん

音だけで聞いていただくので、どのように読めば分かりやすいか、録音する前の下読みや読み方などの工夫には時間がかかりますが、音訳するページをみんなで分担し、CDとして完成したときは、録音に集中していたときの緊張感から解放され、何ともいえない充実感と達成感があります。

### 朗読ボランティア 「うさぎのミミ」

毎月自宅に届くのを待っていたいている方の顔を想像し、発行日である1日に届けたい、そんな思いで制作しています。これからも、より聞きやすいように音訳活動を続けていきます。

平成6年の発足から長く活動を続けるメンバーに加え、4月から大学生となる新しいメンバーも加わり、現在12人で活動をしています。広報紙などの音訳活動以外にも市内の小学校での朗読会や、あいコムこうかでの「お話玉手箱」等を行っています。

カセットテープの時代から、音訳する原稿を何度も読み込み、疑問点を確認し、みんな協力している方へより分かりやすく情報が伝わるよう努めています。『毎月、聴いているよ』と声をかけていた



メンバー手作りのうさぎのワッペンを胸に活動するうさぎのミミの皆さん

音訳CDについて詳しくは秘書広報課までお問合せください。  
問合せ 秘書広報課 広報広聴係  
TEL69-2101 FAX63-4619

### メンバー募集中！

何か始めたいな・・・  
誰かの役に立ちたいな・・・  
そんなあなたの力を貸してください。  
問合せは秘書広報課まで  
(グループ様へ取り次ぎます)

甲賀市視覚障害者福祉協会  
副会長の松村康司さんにお話を伺いました。

### 音声はみんなに優しい

「届いた声の広報は、プレクストークという機器を使用します。購入への補助や貸し出しもあり使用されている方もあります。スマートフォンにはさまざまなお音サポーターアプリがあります。スマートフォンでの購入費用には現在のところ補助がなく、機械を操作することにもハードルが高いため、実際に使用されている方は少ないのが現状です。

より多くの方に情報が効果的に届くようにグループを作るなど、普段からのつながりをつくっておくことで、一斉に情報が届く体制が作れば良いと思っています。

### 自宅で使用されている音声機器



音声を読み上げてくれるプレクストークという機器(CDの盤面を入れて再生できる)



文字を自由に拡大できる機器(背景や文字の色も自由に換えられる)



「音声は高齢者にも優しいと思います」と話す松村さん

一つだけの方法ではなく、いろいろなものから情報が届くよう選択肢がより多い方が良いと思います。中でも音声での情報発信は高齢者の方にとっても優しい方法ではないでしょうか。

## 手話でお届け

あいコムこうかでは毎週1回内容を更新し、「行政情報番組」を放送しています。また手話版として1日1回放送しています。



手話を交え収録を行う山中さん

### これでマスター！

市公式YouTubeの手話講座  
「はじめての手話」(全23回講座)

日常のあいさつや、とっさの一言などを手話と一緒に学んでみましょう。



市公式YouTube

### 行政情報番組

「きらめきこうか(手話版)」放送中！

日時：毎日1回19:00～(毎週1回更新)  
内容：通常の内容に手話を交えて放送

## みんなに伝わる、 みんなもできる！ やさしい日本語

やさしい日本語をより多くの方に知ってもらおうと活動されている国際交流協会日本語交流チームの皆さんにお話を伺いました。「こうした場面で使えるということを寸劇や、防災教室、まち歩きといった機会を通じて少しずつですが考えてもらえるよう努めて

います。昨年のまち歩きには十数人の外国籍の方が参加され、水口歴史民俗資料館や、旧東海道をやさしい日本語で説明しながら歩きました。参加された方からは話もよくわかり、近くでも知らないことがわかったと大変好評でした。外国人とのコミュニケーションは少し身構えてしまうかもしれませんが、誰にでもできる少しの工夫と顔の表情などでも十分に伝わりやすくなります。やさしい日本語はコミュニケーションの一つとしてこれからも広げていきたいです。」

▶やさしい日本語を使う場面を想定した寸劇



楽しく活動するメンバーの皆さん